

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

夢をみることの意味

校長 丹羽正昇

季節外れではありますが、今月はりんごの話です。

つい先日のこと、私は地球とりんごについて書かれているコラムを読みました。それによれば、地球の直径である約12800 kmの1億分の1が、りんごの直径約12.8 cmになるそうです。(本当のところは、品種によって様々ですから、このとおりにはいかないとは思いますが。)

翻って考えれば、この話、りんごを1億個並べれば地球の直径になるということです。ニュートンがりんごの落下から万有引力の法則に気付いたという逸話はあまりにも有名ですが、地球とりんご、私たちが思っている以上に深い関係なのかもしれません。

さて、何気なく書きましたが、りんご1億個を一直線に並べる。これに違和感を覚えたり、これって可能なのかなと思ったりした人はいらっしゃるでしょうか。何が言いたいのかというと、一直線に並べるということ、みなさんはどのようにイメージしたのかということです。

この地球上に実際に並べていくと、一直線に並べているつもりでも、それは地球の円周に沿って並べているにすぎないのだから、本当は直線ではなく曲線なのではないかということ、考えたり言ったりする人がいてもおかしくはないのです。事実、「直線」を一般的な国語辞典で引くと「一つながりのまっすぐな線」と定義され、さらに「まっすぐ」を調べると「一定の方向をとって少しも曲がらない様子」と定義されています。「一直線」をこのように捉えた人にとっては、りんご1億個を一直線に並べることなど不可能だとなるわけです。

一方で、りんご1億個を一直線に並べるとは言葉の綾であり、仮に並べることができるとすればという状況を説明したものであると捉えた人にとっては、可能であるとなるわけです。

もちろん、どちらの捉え方や考え方も正しいことは言うまでもありません。大切なのは、物事に対して自分が何をイメージするのか、そしてそこから何を導き出すのか、さらにはどのように人に説明し共有するのかということです。お互いの考えや主張は異なっていたとしても、それらを尊重しあい、共有することで、自分の考えが広がったり深まったりする。そんな素敵な体験ができる場こそ、学校の授業であるべきだと、私は考えています。

学習とは、子どもの素朴な疑問がきっかけとしてあり、熱心な議論を経ながら、協同的に解決していくプロセスをもちます。未来社会を生き抜くための力が、そのプロセスにおいて身に付いていくのであれば、授業者である教師には、どんな役割があるのでしょうか。これからの教師に求められているのは、子どもの素朴な疑問を引き出して、議論を促し、力を合わせて解決した子どもたちに、解決までのプロセスを振り返って価値を自覚させるようにするというような力なのかもしれません。

そして、子どもたちに求められているのは、りんご1億個を一直線上に並べることを例にすれば、りんご1億個なんて一直線には並べられないと思うのではなく、どうやったらできるのか、どう考えれば実現するのかと試行錯誤することだと思います。別の言い方をすれば、理論上できることでも実際にはできないとあきらめるのではなく、理論上できることなら実際にもできるかもしれないと、失敗を恐れず、大いに「夢」を見ることです。

ひぐみっ子のみなさん、大いに「夢」をみましよう。